

## 戦争の記憶と終戦の日の青い空

谷 玄明さん（長勝寺前住職・昭和10年生まれ）

長勝寺では昭和19年8月に東京の向島から学童疎開の小学生を受け入れていました。女生徒ばかり、男子は1、2名でした。先生も二人来ており、潮来の小学校に行かずお寺が教室で学習をしていました。私の祖母がしつけに厳しい人だったので、疎開で来た子供たちにも整理整頓を指導して、みんな布団をきちんとならべて寝泊まりしていたように思います。子供たちが東京に帰ってから入れ替わりで軍の小隊が長勝寺に駐屯しました。子供の時分だったので並んでいた兵隊さんの銃が珍しくてつい触ってしまった後に、上官に部下が注意されて殴られているのを目撃し、びっくりにした記憶があります。

戦争中は学校に通う途中で空襲警報のサイレンが鳴ると、防空頭巾をかぶって地面にばつと伏せるのです。米軍機が飛来すると乗っているアメリカ人の操縦士の顔まではっきりと見えるので、とても怖かったことを覚えていますが。境内に「たこつぼ」という穴が沢山あって、それは艦砲射撃の時にはその中に隠れるためのものです。お寺の鐘の供出の依頼もありました。長勝寺の鐘は幕末のころから何度も供出されそうになり、その都度守ってきた大切な鐘ですから、第二次大戦のときも取られないようにどこかに隠していたように記憶しています。檀家さんで出征し、戦死した方のお葬式は毎日のようにありました。本当に沢山の方が亡くなりましたので、私も戦後お寺関係の慰霊の旅でペリリユー島はじめ南方方面に何度か赴いています。

終戦記念日のことはよく覚えていて、その朝に兵隊さんに舟で魚をとりに行くのにつれていってもらったのです。「今日のお昼は美味しい魚が食べられるので楽しみだなあ」と子供心に感じたその日の昼に玉音放送がありました。兵隊さんたちと一緒にお寺の居間で放送を聴きました。彼らは「日本が負けた」という言い方ではなく「戦争が終わったのだ」と言っていましたし、自分もそう感じました。暑くて、空がとても青い日だったので今もはっきりと覚えています。その青い空を見上げながら「もう恐ろしい空襲はこないのだ」と心底安心したのでした。

## 内蒙古からの引き揚げの体験

柿崎 康子さん（牛堀地区・昭和9年生まれ）

北京の北にある張家口に昭和15年から終戦まで家族で滞在していました。当時私は小学五年生で父は蒙古連合自治政府に勤務していました。8月15日、大事な放送があると聞き、私達は小学校の校庭で正座して玉音放送を聴きました。雑音で何を言っているか分かりませんでした。「日本は負けた」と先生が静かに言いました。そして夜、父からすぐに荷物をまとめるように言われたのです。突然のことで頭が混乱して何が起きたか理解できませんでした。父と別れ、私達はわずかな荷物を持って街を脱出する電車に飛び乗りました。その列車が東へ向かう最後の引き揚げ列車であったことを後から知りました。途中、八路军（中国共産党の軍隊）の攻撃に遭いながら、命からがら天津にたどり着いたものの、そこには苦しく辛い収容所生活が待っていました。

畳2畳位の狭い場所で家族三人が生活することを強いられ、食事はわずかな量の粟（あわ）のお粥だけ。私は自分の分を半分にして身重の母に「おなかの子供の分も」と渡していました。育ち盛りで空腹に耐えられず、乾燥卵（粉にした保存用の卵）を盗みに行ったこともあります。憲兵につかまらないように怯えながら手に入れた乾燥卵は味がなく、美味しいとはとても言い難い代物でした。また大人に混じって炊き出しの手伝いをして空腹でふらふらになりながら作業した辛さは今も忘れられません。重労働と栄養失調で日に日に弱り、危険な状態だった私を救ったのは天津で再会した父が密かに持参していた栄養剤の静脈注射でした。

日本への引き上げ船に乗って私達が佐世保港に着いたのは昭和20年11月です。収容所や引き上げ船の中で栄養失調や病気で沢山の人が亡くなるのを見ましたので、自分が生きているのが奇跡のように感じます。佐原から船に乗って横利根川を下り、茨城に戻れたのは12月31日で、北利根川の対岸に目に飛び込んできた懐かしい故郷の村は本当に美しく、ああ、帰ってきたと心から安堵し感動したことを今も昨日のこのように思い出します。

## 夏休みに訪ねたい戦争と平和の施設

### 昭和館



昭和10～30年頃までの苦勞の多かった国民生活の実物資料を展示しています。戦時中の生活用品や記録写真、映像、図書等があります。9月9日（日）まで特別企画展「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」を開催中。戦傷病者資料館（しょうけい館）平和祈念展示資料館を回るスタンプラリーを9月2日まで開催しています。

東京都千代田区九段南1-6-1 ☎ 03-3222-2577  
午前10時～午後5時30分（最終入場 午後5時）月曜休館  
常設展入場料 大人 300円、高校・大学生 150円  
小中学生 無料

### 予科練平和記念館



阿見町は大正時代末期に霞ヶ浦海軍航空隊が開隊され、昭和14年に飛行予科練習部（予科練）となり、終戦まで10代の少年達が飛行訓練にあたり、戦地へ赴いた8割が特別特攻隊などで亡くなりました。貴重な予科練の歴史や町の戦史の記録を保存・展示し、命の尊さや平和の大切さを伝えています。

稲敷郡阿見町廻戸5-1 ☎ 029-891-3344  
午前9時～午後5時（最終入場 午後4時30分）月曜休館  
常設展入場料 大人500円、小中学生300円

## 戦争と平和の本を読もう



日本には戦争をしていた歴史があります。私たちの多くの世代は戦争を体験していません。だから痛みや苦しみ、その辛さも想像でしか感じることができません。戦争がどれだけ悲惨なものだったのか、知らないで済ますのではなく、自分で見たり聞いたりして、当時の出来事を知ることは大切なことです。図書館には戦争や平和を考える本がたくさんあります。ぜひご利用ください。

（潮来市立図書館：船見康之館長）

### 図書館で読めるおすすめの本

いしぶみ 広島二中一年生全滅の記録 広島テレビ放送編  
約束 「無言館」への坂を登って 作：窪島誠一郎  
ふるさと潮来 戦時下に生きる 潮来町郷土史研究会  
おとなになれなかった弟たちに… 作：米倉齊加年

戦争と平和について考える専門のコーナーをご覧ください

## 遺族会と戦没者追悼式

### 遺族会の活動

潮来市遺族会（小峰義雄会長）は潮来市内の戦争遺族の福祉向上、相互連絡、親睦を図ることを目的に設立されました。近年は遺族の高齢化に伴い、孫やひ孫世代の活動も行われています。茨城県遺族連合会では青年部を設立し、慰霊を受け継ぎ、平和の尊さを後世に伝える活動を行っています。



茨城県遺族連合会 青年部

【お問合せ】  
潮来市社会福祉協議会  
☎ 63-1296

### 潮来市戦没者追悼式のお知らせ

戦争で亡くなられた市民を追悼し、平和を祈念するために戦没者追悼式を行います。

- ▶対象者 戦没者のご遺族・市民（別途、ご遺族には通知済）
- ▶期 日 9月23日（日）午前10時～11時  
（午前9時30分～受付）
- ▶会 場 潮来公民館 大ホール ※中央公民館工事のため
- ▶その他 服装は平服、略礼服どちらでも構いません。

【お問合せ】社会福祉課 社会福祉グループ  
☎ 63-1111 内線391